

笑顔創造

Smile creation

第2号



「めねぎのうえんのガ・ガ・ガーデン！」より：合同出版

発行日 2023年5月1日
発行元 京丸園株式会社
代表取締役 鈴木厚志
〒435-0022
静岡県浜松市南区鶴見町 380-1
Eメール kyomaru@ck.tnc.ne.jp
URL <https://www.kyomaru.net>

勘 違 い

最初のころ私は、福祉という言葉が嫌いで避けていました。それを変に思った大学の先生が「鈴木さんは、なんで福祉という言葉を使わないのですか？」と。

福祉って障がい者や高齢者や困っている人たちに施すことだと思っていました。施す人と施される人がいて上下関係のように思っていたので違和感を感じていたのです。

先生は、にこりと笑って「福祉」について話をしてくれました。福祉という二文字はそれぞれ幸せという意味があるそうです。「二者が関わることでお互いが幸せになることだよ」と教えて下さいました。

付け加えて、「農業で障がい者雇用をすすめしっかり稼ぐことは立派な福祉ですよ！」と。

私は、どこかで障がい者雇用をすると彼らを安く使って働かせることになるのではと大きな勘違いをしていたのです。

働きの現場も立派な福祉現場になれる！
働きの場こそお互いが幸せになる場ではないかと思うようになりました。

農 業 と 福 祉

農業は、ひとりで全ての作業ができるようになって一人前と認めてもらえます。全部自分がやることを前提に仕事を考えます。技術を身に着ける職人の考え方です。

逆に福祉分野の人たちは、ひとりで全部やろうとは考えません。作業をできるだけ細かく分解し、できる部分を担当し合って仕上げます。いろいろな人達に関わることになるのでその人に合った作業指示を考えます。

農業と福祉の相性の良さは、二者の真逆の思考が互いを支え合うからではないでしょうか。

これから農業は、もっと多くの人たちに参画して欲しいと思っています。その時、福祉の視点がとても重要になるのです。誰でも参画できる農業になるために「作業分解と作業指示」が不可欠です。福祉との連携に農業活性化のヒントがありました！

福祉から大いに学び新しい農業をデザインしましょう。



仕事のはじまり

オランダケアファームの作業場です。重度障がいのある人達も受け入れて一緒に農作業を行っています。

私たちの農園では採用基準に達しないレベルの人も受け入れ根気よく指導し育成するプログラムを持っています。

私たちがケアファームに学びたい部分です。「どんなことから教えていきますか？」と質問すると作業場の壁に指をさし「ここからです！」と。使ったものをあった場所に綺麗にして戻す。「これが出来ない人は、農業はできません！」仕事のはじまりは、整理整頓であると。

仕事の基礎を丁寧に教えていくと農作業ができるようになっていくそうです。

この話を伺ってドキッとしました。工具を探しまわっている自分の姿が浮かんで来ました(汗)。整理整頓をとび越えて先には進めませんね。

**この夏、再度オランダへ
オランダケアファームを訪ね今後の農福連携・ユニバーサル農業を考えます。良かったら一緒にいかがですか？
ご興味のある方連絡お待ちしております！！
令和5年8月計画中です。**

～ 今月の活動 ～

- 4月13日 静岡県農業法人協会「新入社員セミナー」
- 4月15日 遠州ビジネス交流会
- 4月25日 静岡県立農林環境専門職大学「静岡学」
- 4月28日 静岡県立短期大学「介護リクリエーション」
- 5月1日 津田塾大学「総合政策学部」

今月のことば

福祉とは

お互いが幸せに

なること